No.005
2020.12

すたんどばいみー News Letter

ばいみー通信

NPO法人 外国人支援ネットワーク
すたんどばいみー
STAND by ME

挨拶

そばにいること、集うことはすたんどばいみーの根幹にあるものです。新型コロナウィルスの影響で社会がストップしたときに、初めての困難を前に私たちは人と人とのつながりもストップさせられたように感じました。弱い立場にある時こそ、弱った時こそ、誰かという存在が必要です。それを痛感し耐えた約半年間、気づけば木枯らしが吹き渡る季節となりました。

コロナ禍で学校は硬直し、一辺倒のアプローチしかできずに、ある意味では子どもたちにとってセーフティーネットになっていた機能すら停止しました。再開した社会全体や学校は外国人の子どもたちや、その家庭にどんなことが起きているのか想像していません。

すたんどばいみーは SNS で情報を発信しつつ、今までつながっていた子どもたちの様子を聞きとったり、言語のできるスタッフが親の相談にのったりしながら、少しずつ、小さなところから、「会いに行く、そばにいる」ことを再開し始めました。

本年も大変お世話になり会員の皆様には感謝申し上げます。会員の皆様は、誰かとのつながりの中で、安心できる日々を送っているでしょうか。皆様の顔を思い浮かべながら、今号では、緊急事態宣言下から現在までの活動を通して、ばいみーの声をお届けしたいと思います。

REPORT　理事の周辺から

「新型コロナウィルスの影響により帰国困難になってしまった実習生たち」

2020 年 4 月から新型コロナウィルスにより、全体で約 2 万人の実習生が帰国困難になっています。その中でも、今回は非常事態宣言と同時に技能実習生として、ビザが切れてしまい働くことが出来なくなった実習生について話していきたいと思います。

はじめに母国から日本へ渡り、その後にしなければならないことがあります。それは、企業配属準備期間として日本語学校で、日本生活の慣れる事です。企業配属されたら、その日から実習生自身で生活をしてもらいます。（社宅での生活もあれば、企業によっては寮生活もあります。）言語等困りごとがあれば、私がお手伝いすることはありますが、基本的には日常の消耗品の買い物やゴミ出しなど全て、自分たちで行ってもらいます。

今回の彼らは、日本で技能実習生として来る前は、母国で大学生をしていました。母国の送り出し機関と大学の連携が強いためお金を稼ぎに来るというより、経験の一環として来る子たちが多いです。私たちでいう、ワーキングホリディのような感覚です。そのため、彼らは休学をし、実習生として修了すれば、復学をする予定でした。しかし、新型コロナウィルスにより帰国できず、日本語学校で自粛するしか方法がありませんでした。日本語学校では、自習（日本語学習）やボランティア活動（農業のお手伝い等）しかすることはありませんでした。そのため、日本にいても観光や仕事さえもできない事に対して、彼らは嘆いていました。

幸いにも半年後の、10 月に彼らにとって朗報が訪れました。それは、特定活動として、（労働者として）ビザを取得し、半年間再度働く事が出来るようになったのです。自分達の大学卒業を先延ばししてまで、再度働くという事は、現在の状況よりどうなるのか彼ら自身も判断できません。そのため、彼らにとっても、分からない中での選択を迫られています。下期になると、工場の生産は増加し、人手不足で悩まされています。そのため、企業にとっては、とても有難い話ではあります。しかし、特定活動者として、滞在できたとしてもその半年後は、帰国できるか分からない状態です。彼らにとって、半年間の労働は出来ても、帰国できないまま期限が近付けば、また日本語学校へ戻るかもしれないという恐怖が訪れてくるのです。

REPORT　外国人子ども支援事業

小学生教室「自由に遊ぶことの大事さ」

10 月からようやく小学生教室の再開ができました。再開するにあたり子どもの親と連絡を取ると再開できてよかったという声を聞くことができました。

教室ではコロナウィルスについての学習やストレッチ・体を動かすことをなど行い、10 月にはハロウィンのイベントとして子どもたち自身でお面やマントなど衣装を作り、田んぼや団地周辺を仮装してねり歩きをしました。

ある土曜日とても天気が良かったので子どもたちと体を動かして日頃のストレスを発散できるようなことをしてきました。近くの公園でボール鬼をして遊んでいたら、公園で遊んでいた地域の子どもが「僕も一緒にやっていい？」と聞いてきていたので一緒に遊ぶことになり、最初 4 人で遊んでいたのが、続々と他の子も参加してきて最終的には 9 人で遊びました。お互い名前も知らず学校や学年もバラバラな中で純粋に遊んでいる姿をみて、子どもたちには「広いところで友達と遊ぶこと」が大事なことなのだと思いました。また、何かを一緒にやることで人の繋がりや付き合いが生まれてくると感じました。現在何かと自粛ムードが漂い、人との関係が疎になっていくような方向に行きがちですが、たまには外に出て人と触れ合い一緒に遊ぶことや自由にできる環境・機会を作って行くことを大事にして活動をしていきたいです。

中学生教室

3 月から学校が長期休業に入り、3 月から 5 月末までの 3 ヶ月間、中学校の生徒たちに大きな格差が生じていました。塾に通う生徒一特に中学 3 年生は「この状況下でも、本来であれば学校と塾で毎日勉強している時間分の 8 時間を自分で勉強できるようにする」という管理を塾が Zoom を使って行い始めていました。

中学校はと言えば、オンライン授業や授業動画を出すこともオンライン環境の有無で格差を生むという判断が下され、せめてもの授業時間数の大幅な削減の中でも手短にできるように大量のプリント教材が作られていきました。

学校はそのプリントを行うことで、授業数としてカウントすることができるようになってから、プリントを大量に配付し、自力で終わらせなければならない「プリント地獄」となり、その状況を家庭によって管理できる・できないがまた大きな格差になりました。外国にルーツのある子どもたちは特に、そのプリントが評価・成績につながることも知らず、この期間を目的もなく過ごしていくことが多く、学校再開後、先生たちから「やっぱりだらしないよね」と目を付けられることがほとんどでした。

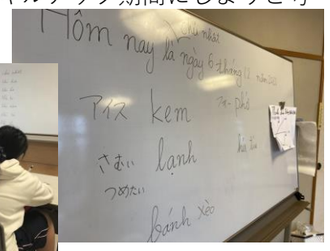
すたんどばいみーに来ている子どもたちもこの会わなかった期間の中で経済状況の悪化から家庭内のギスギス感が生じ、離婚・経済問題、転校にまで発展しました。中学生教室が再会するまでは LINE や電話で連絡を定期的に取っていましたが、やっと７月に入って会場を借りることができました。すたんどばいみーの活動を継続的に取り組むことにも限界があります。それでも中学生教室を毎週続けてきたのは、少しでも格差を広げないためもありますが、日々の生活のしんどさやモヤモヤした気持ちがここならすくってくれる、ひろってくれる、そんな居場所を作りたいからです。そんな気持ちがすたんどばいみーだけでなく学校や様々な場所で作ることができれば良いですが、そんなわけで、中学生教室は再開です。

母国語教室

コロナ禍で近隣の公共施設が借りられるようになってから早い段階で活動を再開しました。しかし、引っ越しをした子どもがおり、以前より参加人数が減って７名が参加しています。コロナ禍の子どもたちは、１にゲーム、２にゲームとやることがなく、ぐうたらして過ごしていたようで高学年の子どもは肥えた様子でした。

再開後のベトナム語教室は、以前と変わらず子どもたちが日常生活で使う用語の学習をしています。継続して開催した結果も少しずつ現れ、ベトナム語のアルファベットを覚えてきてきるようになりました。学習する言葉も「あー、なんかママが言っていた！」と狙い通りの反応を示してくれています。

そんな母語教室の目的は変わらず、日本で生まれ育つ子どもたちに寄り添う外国人として、少しでもルーツに関わる機会を与えたいという想いで開催をしてきました。そのため、よりよい環境を作れるように、来年度は一旦教室を休止して支援者のスキルアップ期間にしようと考えています。



REPORT　多文化共生推進事業

コロナ期間中でも伝えられること

３月から７月にかけて、コロナにおける情報が外国籍の子どもや親、知り合いに対して十分に行き届いていないことを知りました。そのため、外国籍の大人や子ども向けの情報をホームページから発信しました。ホームページ以外にもスタッフの知り合いや教室に来ている子どもの親が見られるよう、利用している人が多いフェイスブックも活用しました。内容としては、

コロナウィルスとはなにか、対応の仕方、感染拡大による労働問題、特別定額給付金について(大和市、綾瀬市、横浜市ごとの申請日一覧等)日本語だけではなく多言語でも伝えられているサイトをリンクとして掲載しました。しかし、検索をしていく中で、カンボジア語での翻訳が少なく感じました。カンボジアのコミュニティが多いこの地域でも、情報が少ないことで困惑した人たちがいました。

日本人に対して、コロナウィルスとは何か、感染対策はどのようにすればよいのか、ワクチンがいつ頃できるかなど、多くの情報が錯綜していたことは事実です。しかし、情報が少ない分だけ、何を判断材料にしたらよいのかわからない状態で過ごす方が恐ろしいです。感染すれば、死につながる可能性がある新型コロナウィルス。その恐怖に対して、外国人であるがゆえに、立ち向かうための手段を持てないということはあってはならないことだと感じました。今現在も続いていますが、このコロナ期間の中で、外国籍の人にとって「翻訳」がいかに重要なものなのかを痛感しました。

地域に根付いた外国人支援団体として、教室等の活動はできてくとも、外国籍の人が情報を得られないことで権利を失わないよう、すたんどばいみーなりのやり方で情報を発信していきたいと思います。

すたんどばいみーでは、サポートしていただける方を募集しています

正会員	**1 口**	**6,000 円/年**	**入会金 5,000 円**
賛助会員	**1 口**	**3,000 円/年**	**入会金 3,000 円**
学生会員	**1 口**	**1,000 円/年**	**入会金 1,000 円**

〈振込先口座番号(ゆうちょ銀行)〉

（ゆうちょ銀行からの場合）
記号：１０９１０　番号：１７９６０２７１
トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー

（ゆうちょ銀行以外の金融機関からの場合）
店名：〇九八店（ゼロキユウハチ店）　普通　口座番号：１７９６０２７
トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー

NPO法人 外国人支援ネットワーク
すたんどばいみー
STAND by ME
〒242-0007
神奈川県大和市中央林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107
TEL/FAX　046-272-8980
fsn.standbyme.2001@gmail.com
https://www.fsn-standbyme.org/